実践報告

名寄市立大学学生のボランティア活動に関する調査報告

結城佳子*　永嶋信二郎　加藤千恵子　今野聖士　泉 史郎
黒河あおい　齋藤千秋　佐藤みゆき　栁原高文　山野良一
松田慎司　刀禰聡美　渡辺博史　松島佳寿夫

名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター

はじめに

本学は、前身である名寄女子短期大学、市立名寄短期大学の歴史と伝統を継承し、常に教育研究活動における地域社会との協働と教育研究成果の地域社会への還元を方針の柱に位置付けてきた。保健福祉学部再編強化にあわせて、附置機関として地域課題の研究に取り組んできた「道北地域研究所」と、開学と同時に設置され本学における地域交流の総合窓口となってきた「地域交流センター」とを発展的に統合し、2016 年４月名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター（以下、センター）を設置した。

センターは、「北海道、特に名寄市を中心とした道北地域における保健・医療・福祉・教育等の充実・発展及び地域並びに産業の振興に住民と連携して取り組み、教育・研究の発展に資する地域貢献を図ること」を目的としている（センター規程第１条）。教育−実践−研究をつなぐ橋渡し拠点として、本学の知的財産を活用し、地域課題の発見・解決に向けた研究や先駆的実践、ケア専門職等の継続教育への支援を行っている。同時に、地域と大学とをつなぐ橋渡し拠点として、大学の教育研究活動等を地域社会に発信するとともに、さまざまな地域交流活動に参画し、その情報を学生や教職員に提供している。

センターの活動には課題もある。その一つは、学生のボランティア活動に対する支援のあり方である。センターでは、前身である地域交流センターの学生ボランティア支援を引き継ぎ、地域から寄せられるボランティア依頼の窓口となり、学生・教職員への情報提供を行ってきた。また、学生がボランティアに対する関心を高めるため、ボランティア講座やボランティア交流会等を開催・共催してきた。しかし、ボランティア活動を継続的に行う学生は限られており、依頼されたボランティア人数に満たなかったり、依頼に応じられなかったりすることもあった。

*責任著者　E-mail:yuki777@nayoro.ac.jp

そこでセンター企画運営会議の取り組みとして、全学生を対象としたボランティア活動に関する調査を実施し、本学学生のボランティア活動の現状とボランティア活動に対する意識を明らかにし、本学における学生ボランティア活動に対する支援を検討する基礎的資料とすることとした。本稿は、その調査結果を報告するものである。

なお、本稿において「ボランティア」とは、学生が自発的に実施する正課外活動を指している。

１.調査概要

１）調査名称

名寄市立大学学生のボランティア活動に関する調査

２）目的

本学学生のボランティア活動の現状を把握する。その成果は、本学における学生のボランティア活動に対する支援を評価し、今後の方向性を検討する基礎的資料として活用する。

３）調査方法

（１）対象

2017年10月1日現在、保健福祉学部ならびに短期大学部に在学する全学生。
ただし、休学者を除く。

（２）データ収集期間

2017年12月1日～12月25日

（３）データ収集方法

① 無記名自記式質問紙調査を実施した。OFFICE365のForm機能を活用し、QRコードもしくはURLを用いたスマートフォン、PC等からのWEB入力により回答することとした。何らかの理由によりWEB入力ができない場合は、質問紙を配布した。質問紙による調査とWEB入力による調査の内容は同じものである。

② 講義時間等を活用し、全学生に対してWEB入力用のQRコード、URLを示した依頼文書を配布した。WEB入力ができない場合、同時に質問紙を配布した。質問紙により回答した場合の回収はコミュニティケア教育研究センター等で行った。

③ 配布時、口頭ならびに文書により調査目的および方法、調査結果の活用ならびに公表方法と個人情報保護への配慮を周知した。

④ 調査への協力は任意としたが、調査目的を十分に説明し、可能な限り全学生の協力を求めた。WEB入力もしくは回答紙の提出を持って調査協力への同意があったものとみなした。

（４）調査内容

① 基本属性

② 大学入学後のボランティア活動の経験と内容

③ ボランティア活動に関する情報入手の方法

④ ボランティア活動の促進/阻害要因

⑤ ボランティア活動への期待/満足度

別紙資料　「名寄市立大学学生のボランティア活動に関する調査」実施要領

（５）データ分析方法

基本属性ならびに各質問項目について、統計学的手法により集計、分析を行った。集計には、Excel2016を用いた。

2. 調査結果

1）回答者の状況

対象者（10 月 1 日現在在籍者・休学者除く）数　682 名

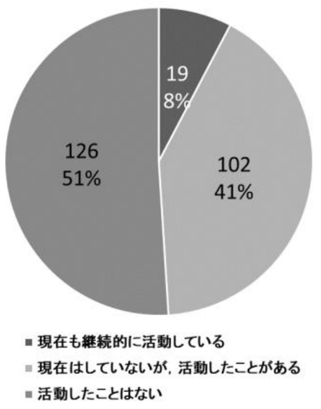
回答数　247 名（36.2%）　有効回答数　247 名（36.2%）

表Ⅱ-1　学科・学年別有効回答数および有効回答率

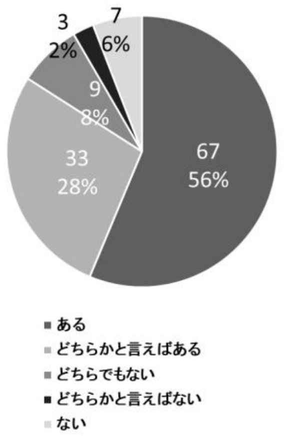
	栄養学科		看護学科		社会福祉学科		社会保育学科	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1年	6	14.6	41	78.8	25	48.1	41	82.0
2年	1	2.5	29	52.7	2	3.8	25	48.1
3年	0	0.0	44	91.7	4	7.1		
4年	8	19.0	15	28.8	6	11.1		

表Ⅱ-2　回答者基本属性

		人	%
性別	男性	30	12.1
	女性	217	87.9
学年	1年	113	45.7
	2年	57	23.1
	3年	48	19.4
	4年	29	11.7
学科	栄養学科	15	6.1
	看護学科	129	52.2
	社会福祉学科	37	15.0
	社会保育学科（短期大学部児童学科含む）	66	26.7
住まい	家族と同居	27	10.9
	一人暮らし	206	83.4
	その他	14	5.7



図Ⅱ-1　入学後のボランティア活動経験



図Ⅱ-2　活動の専攻分野との関連

2）入学後のボランティア活動経験

本学入学後、継続的にボランティア活動をしている学生は 19 名（7.6%）に過ぎず、本学入学後はボランティア活動をしたことがない学生が半数を超えている。

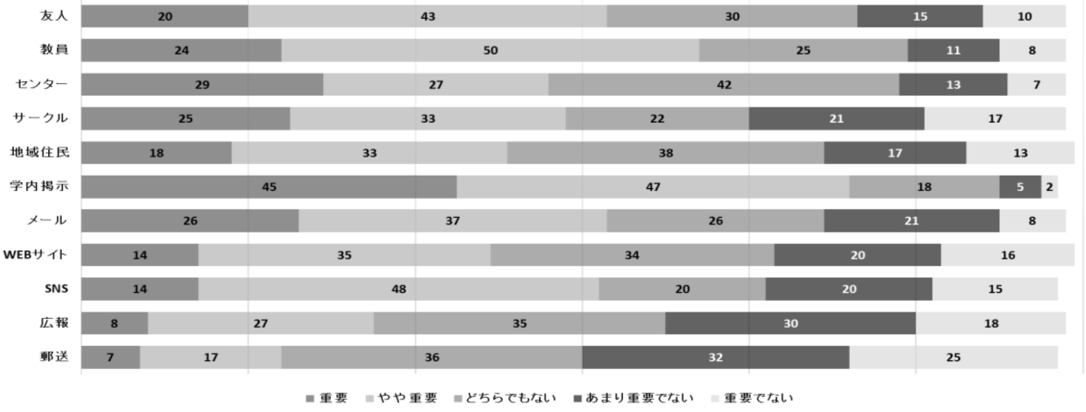
3）本学学生のボランティア活動の状況

本学入学後のボランティア活動について、「現在も継続的に活動している」「現在はしていないが、活動したことがある」とした者 121 名（49.0%）に対して、ボランティア活動の状況を調査した。

（1）専攻分野との関連

ボランティア活動の専攻分野との関連性について、「ある」、「どちらかと言えばある」合わせて 100 名(82.6%)が専攻分野との関連性があるとした。

（2）ボランティア情報の入手



図Ⅱ-3　ボランティア情報の入手方法の重要性

ボランティア情報の入手について、「学内掲示」を「重要」「やや重要」とした者が最も多く合わせて 92 名（76.0%）、次いで「教員」74 名（61.2%）、「メール」63 名（52.1%）、「SNS」62 名（51.2%）であった。メール、SNS 等の普及した現状においても、本学学生はボランティア情報入手において学内掲示を多く活用していた。

（３）ボランティア活動の契機

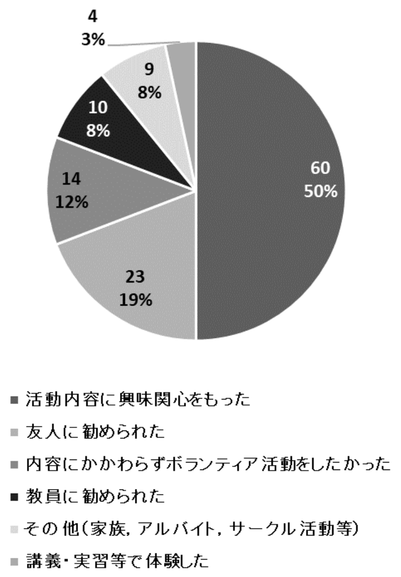
「活動内容に興味関心をもった」とした者が 60 名（49.5%）と最も多く、次いで「友人に勧められた」23 名（19.0%）であった。

（４）ボランティア活動に期待するもの（複数回答）

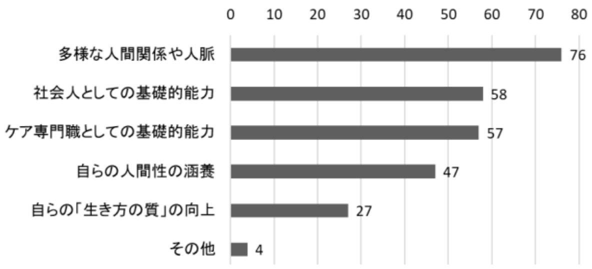
ボランティア活動を行うことによって得られた（得ることを期待する）ことについて、「多様な人間関係や人脈」とした者が 76 名（62.8%）と最も多く、次いで「社会人としての基礎的能力」58 名（47.9%）、「ケア専門職としての基礎的能力」57 名（47.1%）であった。

（５）ボランティア活動の内容（複数回答）

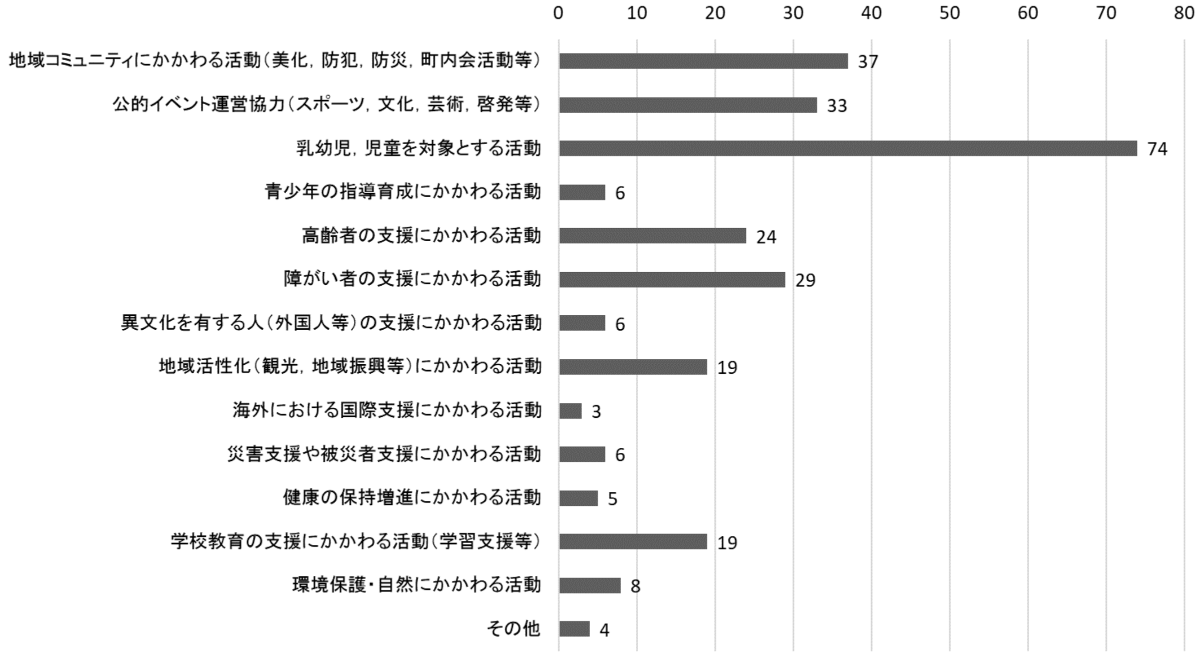
これまで参加したボランティア活動の内容としては、「乳幼児・児童を対象とする活動」とした者が 74 名（61.2%）と最も多く、次いで「地域コミュニティにかかわる活動」37 名（30.6%）、「公的イベント運営協力」33 名（27.3%）、「障がい者の支援にかかわる活動」29 名（24.0%）であった。



図Ⅱ-4　ボランティア活動の契機



図Ⅱ-5　ボランティア活動への期待



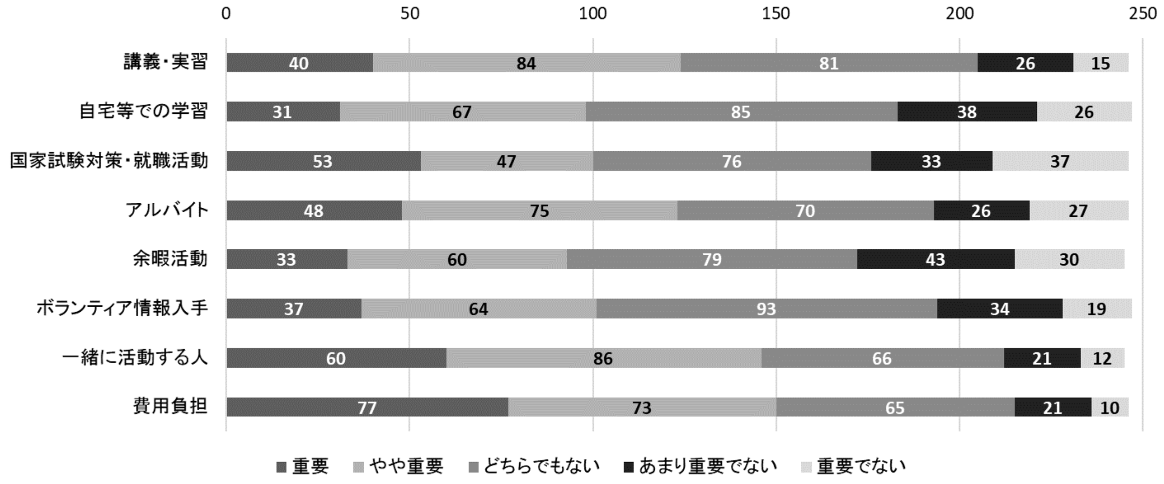
図Ⅱ-6　ボランティア活動の内容

4）本学学生のボランティア活動に対する意識

本学入学後のボランティア活動の有無にかかわらず、回答者全員にボランティア活動に対する意識を調査した。

（1）ボランティア活動に制約が生じる理由

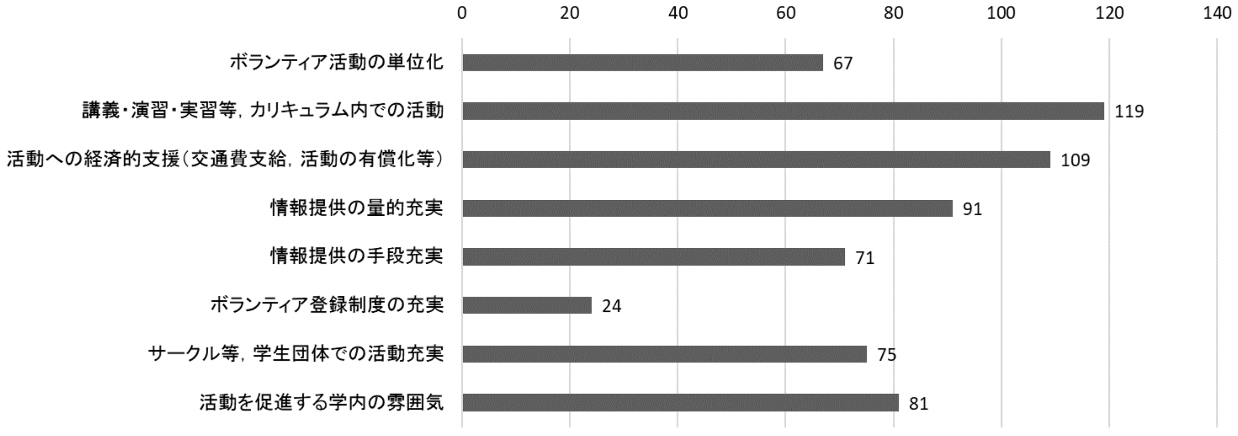
ボランティア活動をしない、あるいは、ボランティア活動に制約が生じる理由として、「費用負担」を「重要」「やや重要」とした者は合わせて150名（60.7%）と最も多く、次いで「一緒に活動する人」を「重要」「やや重要」とした者146名（59.1%）、「講義・実習」124名（50.2%）、「アルバイト」123名（49.8%）であった。



図Ⅱ-7　ボランティア活動に制約が生じる理由

（2）ボランティア活動を促進する要因（複数回答）

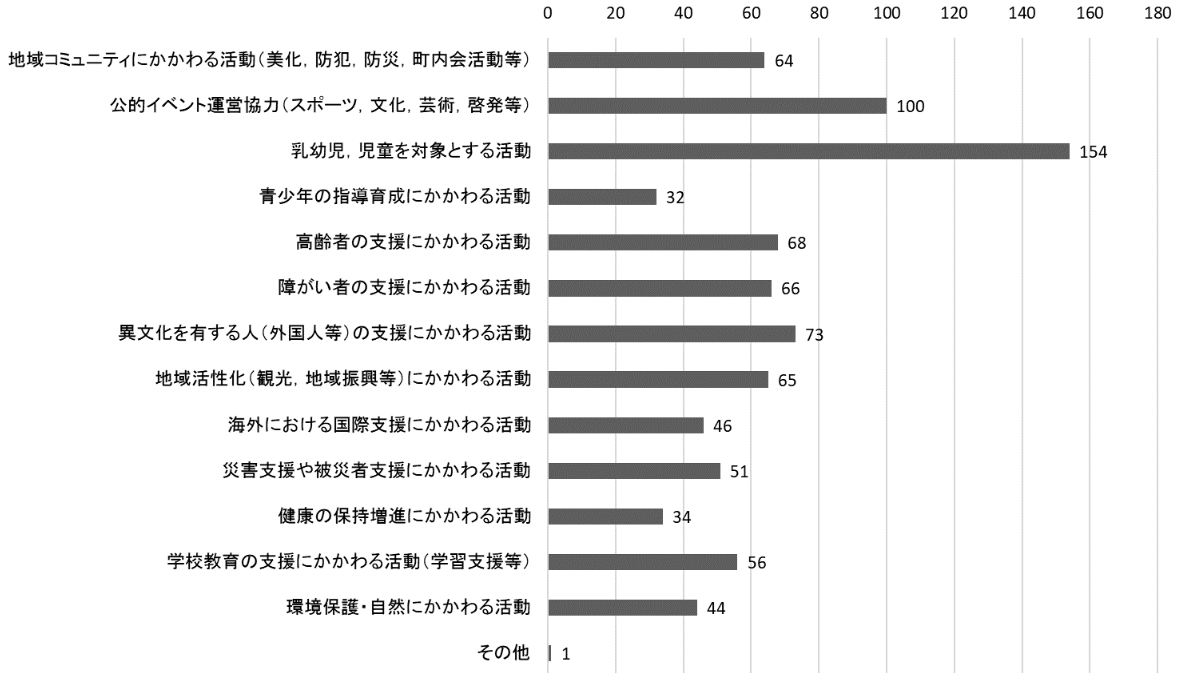
どのような条件が整えば、ボランティア活動をしたい、あるいは、より充実した活動ができると思うかという問いに対して、「講義・演習・実習等、カリキュラム内での活動」とした者が最も多く119名（48.2%）、次いで「活動への経済的支援（交通費支給、活動の有償化等）」とした者109名（44.1%）であった。ボランティア情報の提供については、「量的充実」91名（36.8%）、「手段充実」71名（28.7%）であった。



図Ⅱ-8　ボランティア活動を促進する要因

（３）やってみたいボランティア活動の内容

　機会があればやってみたいボランティア活動について、「乳幼児、児童を対象とする活動」とした者が 154 名（62.3%）と最も多く、次いで「公的イベント運営協力（スポーツ、文化、芸術、啓発等）」100 名（40.5%）、「異文化を有する人（外国人等）の支援にかかわる活動」73 名（29.6%）であった。



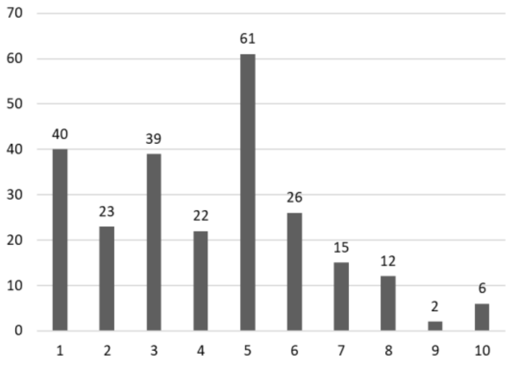
図Ⅱ-9　やってみたいボランティア活動の内容

５）本学学生のボランティア活動およびその支援に対する満足度

（１）ボランティア活動に対する満足度

　本学入学後のボランティア活動に対する満足度を、大変満足な状態を「10」、全く不満足な状態を「1」として 10 段階で評価した。

　最頻値は「5」とした者 61 名（24.7%）であったが、不満足な状態である「1」から「4」とした者は、合わせて 124 名（50.2%）であった。

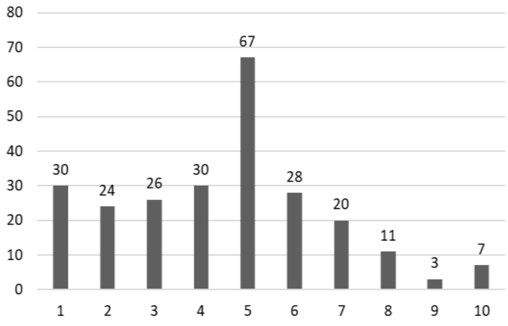


図Ⅱ-10　ボランティア活動への満足度

（２）ボランティア活動支援に対する満足度

　本学における学生のボランティア活動への支援に対する満足度を、大変満足な状態を「10」、全く不満足な状態を「1」として 10 段階で評価した。

　最頻値は「5」とした者 67 名（27.1%）であったが、不満足な状態である「1」から「4」とした者は、合わせて 110 名（44.5%）であった。



図Ⅱ-11　ボランティア活動支援への満足度

６）自由記述

　自由記述は 31 名（12.6%）が記入していた。多様なボランティア情報が得やすく、申し込みも容易である、ボランティアにかかわれるサークルがあるのがいい、もっといろんな活動

に参加したいという肯定的、積極的な記述(11件)があった。あわせて、道外や海外でのボランティアにも参加したいが情報が少ない、休日のボランティア募集が多いが平日のボランティア情報がもっとほしいなど、ボランティア情報に関する要望も得られた。一方、ボランティアをしてみたい気持ちはあるが行動に移せていない（3件)、ボランティアに関する情報が少なく、情報を得る手段がわからない（4件)、ボランティアに対する意識が全学的に低く、大学として組織的な取り組みが不足している（4件）といった記述もあった。

３．考察

対象者682名に対して有効回答数247名、有効回答率36.2%であり、学科学年によって回答率が大きく異なった。そのため、学科学年間の差異についての分析は行わなかった。本調査結果を本学学生のボランティア活動の現状とボランティア活動に対する意識として一般化することには慎重でなければならないが、回答率の低さ、学科学年間における回答率の差異は、本学のボランティア活動に対する関心の低さとその偏りを示していると言えるかもしれない。

１）本学学生のボランティア活動状況

2017年度、センターで受理したボランティア情報は48件、うち参加ボランティア件数32件、延171名の学生がボランティア活動に参加した(2018年3月13日現在)。また、センターのボランティア登録学生は107名である（同)。しかし、本調査結果では、調査時点で継続的にボランティア活動をしている学生は回答者の１割に満たず、限られた学生が多くのボランティア活動に複数参加していることが示唆された。公益財団法人日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvo)調べ『全国学生１万人　ボランティアに関する意識調査2017』においても、ボランティアに興味が「ある」と答えた学生の割合は60%を超えていたが、直近１年間で活動に参加した割合は30%弱に留まっていた。Gakuvo調べでは授業・ゼミ等での活動を含めていることを鑑みても、本学学生のボランティア活動への参加はごく一部学生に限られていると言える。

ボランティア活動の内容と専攻分野との関連性は高く、学生はボランティア活動によって多様な人間関係や人脈、社会人として、ケア専門職としての基礎的能力を得た、あるいは、得ることを期待していた。本調査結果では、乳幼児・児童を対象とする活動をした学生が最も多かったが、次いで町内会活動など地域コミュニティにかかわる活動をした学生が多くなっていた。地域社会との密接な関係性のなかでケア専門職を養成してきた本学の歴史と理念を反映していると考えられる。

２）ボランティア活動の契機と情報入手方法

ボランティア活動に参加した契機として、活動内容への興味関心が半数近くであることから、学生に対してボランティア情報を提供する手段やその内容が重要であると言える。Gakuvo調べにおいても、「活動に対する自分の適性」や「活動の趣旨への賛同・共感」、「学校の推奨」を活動参加の契機とした学生の割合が他の項目に比して高くなっていた。ボランティア情報の提供においては、より多くの学生が情報を入手できることと同時に、活動の趣旨・目的や内容をわかりやすく伝える工夫が重要であると言える。

本調査結果では、ボランティア情報の入手において学内掲示が重要であるとした学生が多かった。2017年度よりセンターの情報提供手段としてSNS活用を始めたが、ボランティア情報の提供手段としては十分に活用し切れていない。ほぼ全学生がスマートフォンを使用している現状を考えると、学内掲示を継続しつつ、SNS活用のさらなる充実が必要である。また、教員や友人からの情報入手を重要であるとした学生も多く、全学的に学生ならびに教職員のボランティアへの関心を高めていく必要もあると考えられる。

さらに、少数意見ではあるが、道外や海外でのボランティア活動や平日に参加できるボランティア活動の情報を期待する声もあった。センターとして、より積極的にボランティア情報を収集し、情報提供することも検討する必要があろう。

３）ボランティア活動を阻害/促進する要因

ボランティア活動に制約が生じる要因として、費用負担や一緒に活動する人の有無とした者が講義・実習やアルバイトとした者よりも多かった。また、ボランティア活動を促進する要因として、活動への経済的支援をあげた者がカリキュラム内でのボランティア活動に次いで多かった。ボランティア活動の仲間づくりや活動にかかる経済的負担の軽減に取り組む必要がある。やってみたいボランティア活動について、現在の活動に加えて幅広い活動内容を学生は期待している。大学の立地上、近接する地域内でのボランティア活動の多様性には限界がある。必ずしも学生の期待に応えられないかもしれないが、センターとして近接する地域内に限らず、広くボランティア情報の収集を積極的に行っていく必要があると言える。

４）ボランティア活動およびその支援に対する満足度

本学入学後のボランティア活動に対しても、ボランティア活動に対する本学の支援に対しても、学生の満足度は高いとは言えない。ボランティア活動について一定の関心がある者が調査に協力していることを鑑みると、学生全体の満足度はさらに低いかもしれない。学生の期待に応じた多様なボランティア情報の提供やボランティア機会の創出、ボランティア活動の仲間づくりや経済的負担の軽減等、本調査により明らかになった点を中心に改善を進めていく必要がある。

４. 結論

調査時点で継続的にボランティア活動をしている者は１割に満たず、複数のボランティア活動に参加している学生がいる一方で、入学後ボランティア活動をしていない学生が半数以上であった。本学学生は、ケア専門職としての基礎的能力を修得するうえでボランティア活動に価値を置く一方で、活動への参加にはともに活動する仲間が必要であること、学生は多様なボランティア活動情報を期待しており、活動支援においては経済的負担を軽減する方策の検討が必要であることが示唆された。

おわりに

開学以降初めて全学生を対象としたボランティア活動に関する調査を行い、今後のボランティア活動支援において有意義な示唆が得ることができた。回収率の低さや学科学年間の回収率の偏り等の課題はあるが、本調査の結果をふまえて学生のボランティア活動に対する支援を検討するとともに、支援の成果に対する評価にも活用していきたいと考えている。

調査にご協力くださった学生、教職員の皆さまに心より御礼を申し上げます。

参考URL

公益財団法人日本財団学生ボランティアセンター（Gakuvo）：全国学生１万人～ボランティアに関する意識調査2017～

http://gakuvo.jp/about/newsrelease/（2018年３月13日閲覧）

「名寄市立大学学生のボランティア活動に関する調査」
実施要領

１．名称
名寄市立大学学生のボランティア活動に関する調査

２．目的
本学学生のボランティア活動の現状を把握し，今後のボランティア活動に対する支援方向性を検討する基礎的資料として活用する。

３．調査方法

1）対象
2017 年 10 月 1 日現在，保健福祉学部ならびに短期大学部に在学する全学生

2）データ収集期間
2017 年 12 月 1 日～12 月 25 日

3）データ収集方法
① 無記名自記式による質問紙調査とする。一部，OFFICE365 を活用した QR コードもしくは URL から WEB 入力により調査を行う。調査内容は同一のものとする。

② 講義時間等を活用し，全学生への依頼文書（QR コード含む）もしくは質問紙の配布を行う。質問紙により回答した場合の回収は事務局等に回収箱を定置して行う。

③ 配布時，口頭ならびに文書により調査目的および方法，調査結果の活用ならびに公表方法と個人情報保護への配慮を周知する。

④ 調査への協力は任意とするが，調査目的を十分に説明し，可能な限り全学生の協力を求める。回答紙の提出，もしくは WEB 入力を持って調査協力への同意があったものとみなす。

4）調査内容
別紙　「名寄市立大学学生のボランティア活動に関する調査」

5）データ分析方法
基本属性ならびに各質問項目について，統計学的手法により集計，分析を行う。集計，分析には統計パッケージソフト SPSS for Windows 23.0J を用いる。

４．その他
1) 質問紙配布ならびに回収は，コミュニティケア教育研究センター企画運営会議委員が行う。

2) データの集計・分析は，コミュニティケア教育研究センターを中心に行う。

3) 結果については，本学運営の基礎資料とするとともに，コミュニティケア教育研究センター所報において公表する。

名寄市立大学学生のボランティア活動に関する調査

名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター

※ 当てはまる番号に〇をし，必要な事項は記入をお願い致します。
表裏４ページあります。全てにご回答ください。

問1　本調査について，WEBからの回答をしていませんか？

していない　　した

⇒「した」と答えた方は，本質問紙での回答は不要です。

問2　あなたの性別を教えてください

女性　　男性

問3　あなたの学年を教えてください

１年生　　２年生　　３年生　　４年生

問4　あなたの所属する学科を教えてください。

栄養学科　　看護学科　　社会福祉学科　　社会保育学科・児童学科

問5　現在のお住まいについて教えてください

家族と同居　　一人暮らし　　その他（　　　　）

問6　本学入学後のボランティア活動の経験について教えてください。

1）現在も継続的に活動している

2）現在はしていないが，活動したことがある

3）活動したことはない

⇒「3）活動したことがない」と回答した方は，問22以降に回答してください

※ 問６で「1）活動している」，「2）現在はしていないが，活動したことがある」と回答した方に伺います。

問7　ボランティア活動の内容はあなたの専攻分野に関係がありますか

ある　　どちらかと言えばある　　どちらでもない　　どちらかと言えばない　　ない

問8　ボランティア情報の入手先として「友人」の重要性はどの程度ですか

重要でない　　あまり重要でない　　どちらでもない　　やや重要　　重要

問9　ボランティア情報の入手先として「教員」の重要性はどの程度ですか

重要でない　　あまり重要でない　　どちらでもない　　やや重要　　重要

問10　ボランティア情報の入手先として「コミュニティケア教育研究センター」の重要性はどの程度ですか

重要でない　　あまり重要でない　　どちらでもない　　やや重要　　重要

問11　ボランティア情報の入手先として「サークル」の重要性はどの程度ですか

重要でない　　あまり重要でない　　どちらでもない　　やや重要　　重要

問12　ボランティア情報の入手先として「地域住民」の重要性はどの程度ですか

重要でない　　あまり重要でない　　どちらでもない　　やや重要　　重要

問13　ボランティア情報の入手先として「学内掲示」の重要性はどの程度ですか

重要でない　　あまり重要でない　　どちらでもない　　やや重要　　重要

裏面もあります

問14　ボランティア情報の入手先として「メール」の重要性はどの程度ですか

重要でない　　あまり重要でない　　どちらでもない　　やや重要　　重要

問15　ボランティア情報の入手先として「WEBサイト」の重要性はどの程度ですか

重要でない　　あまり重要でない　　どちらでもない　　やや重要　　重要

問16　ボランティア情報の入手先として「SNS（LINE，Twitter等）」の重要性はどの程度ですか

重要でない　　あまり重要でない　　どちらでもない　　やや重要　　重要

問17　ボランティア情報の入手先として「自治体広報（広報なよろ等）」の重要性はどの程度ですか

重要でない　　あまり重要でない　　どちらでもない　　やや重要　　重要

問18　ボランティア情報の入手先として「案内郵送」の重要性はどの程度ですか

重要でない　　あまり重要でない　　どちらでもない　　やや重要　　重要

問19　最初にボランティア活動をしたきっかけは何でしたか

1）内容にかかわらずボランティア活動がしたかった

2）活動内容に興味関心をもった

3）友人に誘われた

4）教員に勧められた

5）講義・実習等で体験した

6）その他（　　　　）

問20　ボランティア活動をすることによって得られた（得ることを期待する）ことは何ですか
（複数回答可）

1）社会人としての基礎的能力　　4）自らの「生き方の質」の向上

2）ケア専門職としての基礎的能力　　5）多様な人間関係や人脈

3）自らの人間性の涵養　　6）その他（　　　　）

問21　これまで参加したボランティア活動は，どのような内容ですか
（複数回答可）

1）地域コミュニティにかかわる活動（美化，防犯，防災，町内会活動等）

2）公的イベント運営協力（スポーツ，文化，芸術，啓発等）

3）乳幼児，児童を対象とする活動

4）青少年の指導育成にかかわる活動

5）高齢者の支援にかかわる活動

6）障がい者の支援にかかわる活動

7）異文化を有する人（外国人等）の支援にかかわる活動

8）地域活性化（観光，地域振興等）にかかわる活動

9）海外における国際支援にかかわる活動

10）災害支援や被災者支援にかかわる活動

11）その他（　　　　）

裏面もあります

※　皆さまにお伺いします。

問22　ボランティア活動をしない，あるいは，ボランティア活動に制約が生じる理由として「講義・実習（出席により時間的拘束が伴う学業）」の重要性はどの程度ですか

重要でない　　あまり重要でない　　どちらでもない　　やや重要　　重要

問23　ボランティア活動をしない，あるいは，ボランティア活動に制約が生じる理由として「自宅等での学習（課題や試験準備等，時間的拘束が伴わない学業）」の重要性はどの程度ですか

重要でない　　あまり重要でない　　どちらでもない　　やや重要　　重要

問24　ボランティア活動をしない，あるいは，ボランティア活動に制約が生じる理由として「国家試験対策・就職活動」の重要性はどの程度ですか

重要でない　　あまり重要でない　　どちらでもない　　やや重要　　重要

問25　ボランティア活動をしない，あるいは，ボランティア活動に制約が生じる理由として「アルバイト」の重要性はどの程度ですか

重要でない　　あまり重要でない　　どちらでもない　　やや重要　　重要

問26　ボランティア活動をしない，あるいは，ボランティア活動に制約が生じる理由として「余暇活動（サークル活動を含む）」の重要性はどの程度ですか

重要でない　　あまり重要でない　　どちらでもない　　やや重要　　重要

問27　ボランティア活動をしない，あるいは，ボランティア活動に制約が生じる理由として「ボランティア情報の入手」の重要性はどの程度ですか

重要でない　　あまり重要でない　　どちらでもない　　やや重要　　重要

問28　ボランティア活動をしない，あるいは，ボランティア活動に制約が生じる理由として「一緒に活動する人」の重要性はどの程度ですか

重要でない　　あまり重要でない　　どちらでもない　　やや重要　　重要

問29　ボランティア活動をしない，あるいは，ボランティア活動に制約が生じる理由として「費用負担（交通費や必要物品購入等）」の重要性はどの程度ですか

重要でない　　あまり重要でない　　どちらでもない　　やや重要　　重要

問30　どのような条件が整えば，ボランティア活動をした，あるいは，より充実した活動ができると思いますか（複数回答可）

1）ボランティア活動の単位化
2）講義・演習・実習等，カリキュラム内での活動
3）活動への経済的支援（交通費支給，活動の有償化等）
4）情報提供の量的充実
5）情報提供の手段充実
6）ボランティア登録制度の充実
7）サークル等，学生団体での活動充実
8）活動を促進する学内の雰囲気
9）その他（　　　　　　　　　　　　）

裏面もあります

問31　今後機会があれば参加したいボランティア活動はどのような内容ですか（複数回答可）

1）地域コミュニティにかかわる活動（美化，防犯，防災，町内会活動等）
2）公的イベント運営協力（スポーツ，文化，芸術，啓発等）
3）乳幼児，児童を対象とする活動
4）青少年の指導育成にかかわる活動
5）高齢者の支援にかかわる活動
6）障がい者の支援にかかわる活動
7）異文化を有する人（外国人等）の支援にかかわる活動
8）地域活性化（観光，地域振興等）にかかわる活動
9）海外における国際支援にかかわる活動
10）災害支援や被災者支援にかかわる活動
11）その他（　　　　　　　　　　　　）

問32　本学入学後のボランティア活動について，あなたの満足度を教えてください

不満足　　　　　　　　　　　　　　満足
1　2　3　4　5　6　7　8　9　10

問33　学生ボランティア活動に対する本学の支援について，あなたの満足度を教えてください

不満足　　　　　　　　　　　　　　満足
1　2　3　4　5　6　7　8　9　10

問34　本学におけるボランティア活動について，あなたが感じていること，考えていることを自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました